半田運河周辺ビジョンワークショップ

第一回 レポート　23/11/20　18:30-　場所：小栗家住宅

半田市の中でも歴史や文化が強く残り、多くの観光客が訪れるエリアである半田運河周辺エリア。
そのエリアのビジョンを考えるワークショップの第一回目は、国指定文化財である小栗家住宅にて行われました。

まずは会場の小栗家住宅の 14 代目当主小栗宏次さんからお話。
「今日はとてもワクワクしている。ここは、新しい時代に向かっていく日本の流れを意識して、チャレンジの象徴として 1870 年に建てられた。今日はそんな場所で令和の新しい時代のチャレンジが語られることにとても期待している」とのとても前向きな言葉が。半田の先人にはすごい人がたくさんいて、（半田の湧水を利用して醸造　道路　鉄道　運河の流れ、教育など）先見の明がある人が地域を作った、と半田の歴史に触れながら、令和の時代の半田の資源の魅力ってなんだろうか？ということを考えてほしい、と力強いエールをいただきました。

まずは 25 名の参加者さんに自己紹介をしていただきます。すでに運河周辺にて活動されている方も多く、それぞれ半田運河周辺をもっといいエリアにしたいと集まっています。

計 3 回のワークショップのファシリテーターを務めるのは、（株）RW 代表でクリエイティブディレクターの稲波さん。
「デザインはいろんなことに使える手法。まちづくりや夫婦喧嘩にも使える。ビジョンは目的で、その通りに動かしていくことがブランディングです。文化・文脈が非常に深いエリア、一緒に作って行けるのを楽しみにしている。」とファシリテーション側も気合十分です。
次に半田市観光協会の榊原さんから。
半田運河は伝統の発展の水辺。コロナも明けて観光を軸にいろんな取り組みがされてきており、歴史文化と観光が街の軸の一つになっていくのではないか。半田にしかない風景を生かした取り組みしていきたい、とのお話がありました。

いよいよワークに入っていきます。たたき台としてのビジョンはある状態。街は利害関係者が多様で（静かに住みたい人、観光に来て欲しい人など…）ビジョンを作っていくのが難しい。だからこそ、引っ張っていきたい人がどんな未来を作っていきたいかをしっかり考えていくことが大事です。
みんなが見えてる未来を抽象化していく。そのことで共感する人が外から来ることもある。今日は皆さんが見えてる未来と課題をまずは出していただく回となります。

Q１まずは見えている課題を出す
たたき台のビジョンを実現をするための課題を出していきます。難しかったら普段感じていることでも OK。ポイントは深く考えずにとにかく手を動かすことです。
個人ワークの後、グループ内ででシェア。（発表する中で気づいたことは大事な課題）
その後、チームごとに全体で発表です。
① お店が少ない、整備されてない（駐車場ない　ホテルない）、魅力が知られてない
②ハード、人、食というキーワード。中でも「人」が一番大事。結論：愛がない　愛を増やそう！
③食　（食べるところ、カフェない）、観光スポットの距離感に問題がある、1 日過ごすのが難しい
④観光地であった方がいいのか？景観以外の魅力は？、空いている店の活用　店同士のつながり、宿泊施設がないのが大きな課題では？どういう形で滞在していくのがいいのか
⑤水辺の活用（水質の問題？）水に入れたらもっと楽しめるのではないか、発酵、人がいない（人がそもそも住んでないエリア。歩いたら素敵なのに全然いない）

稲波さんからは
感じる課題は主観が多く入る、というのが聞いていての印象。ビジョンは当事者がどうありたいかを噴出し、それを本気で形作るから強いものになっていく。誰かが望む未来ではなく自分が本当に望む未来を考えてみるのが大事。

Q2 皆さんが手に入れたい未来は？抽象的なことも具体的なことも全部書き出す。
個人ワークの後、グループ内ででシェア。ツッコミ合いながら、まとめながらやるといい、とのアドバイスが。お互いの未来を実現できるように抽象化するのが大事です。

②愛が生まれた
半そと、半うちの軒下の場所を作る　そこに伴走してくれる人（活動することを応援してくれる人）がいる
本が読める場を作る（水辺の活用）、食（知多産を広める）、歴史がある、何度も来たくなる、仲間が来たくなる
→「愛があるから」

③「訪れると心も体も綺麗になるまちに」外に向けて→発酵コンセプトのお店で体を綺麗に　綺麗な景観も見て心を綺麗に。地元の人に向けて→チャレンジを支援できる街に。

④来る人も住んでいる人も生き生きとして楽しそうなエリア。
実際、どれだけお金を投じる覚悟があるの？醸造、歴史、景観、ここにしかないものが魅力になるんじゃないか。街の人がウロウロしていて、魅力を街の人の言葉で伝える活動。小さなところから始める。人が出てこれる環境を作る。

①水辺を生かすエリア（屋台、水辺で呑める、四季折々の風景を生かす）、ワクワクがたくさんあるエリア（この後どうするなんて言わせない！迷わず行ける情報の整理・エリアのお店が連携してテーマパークになるような）

⑤半田エリアをプライドを持つ場所に（海鮮と発酵のミュージアムなど、歴史や文化を伝えたい）、イベントには人が集まるので、そういうのも活かして半田のこと伝えたい

その後、発表を踏まえて意見交換を行いました。

→②本が読める場所を作る、が特によかった
　PC とかもできそう　ベンチとか川沿いに欲しい　今からでもできそう
→① テーマパークに共感
　駅から目的地までのワクワクできる仕掛けがあるといいのかも
→④ 住民が街のいいところを伝える　教えて貰うことによって、故郷が増える感覚になる
　自主的にそういう人が増えるといいな
→②伴走してくれる人がたくさんいる　とてもいいな
　キーワードになりそう
→おしゃらくさんからの言葉にお前らはどうするんだ！というメッセージを感じた。
　意気込みを感じて鼓舞された。
田中さん（おしゃらくさん）
この場所には縁があると思っている　土地まで売っていただいたので何かしないといけない！と感じている
榊原さん　若い人たちの応援がしたい。どうしたら叶えられるのか掛け合うのが大好き
→③「心も体も綺麗になる」コンセプトが素敵。行ったら綺麗になれる街はいい未来だなと思った。

最後に稲波さんから
隣人の未来を実現していくことで、ずっと愛される街になっていく。次の回はもっとグチャグチャになります。
ふわっとしたものになりがちなビジョンをちゃんと使えるものにするためにしっかり考えていくのが大事。今日の話や思いの共有は大事なので、できたら次回までに振り返る時間作っておくといいと、お話がありました。

参加者の皆さんの熱い半田への思いが感じられ、次回以降がますます楽しみな初回となりました。